

第39回 和紙の里文化フェスティバル

― 出会いと歴史 未来に伝える 和紙の里 ―



押し花体験教室でしおりを作成。
世界でたった一つのしおりができたと話してくれました。



5月18日（土）、19日（日）の2日間、道の駅和紙の里ひがしちちぶで第39回和紙の里文化フェスティバルが開催され、多くの方にご来場いただきました。

pick up
pick up

ここでは、和紙の里文化フェスティバルを振り返ります。

5月18日（土）

和紙の里文化フェスティバル初日は、槻川G3バンドの素晴らしい演奏から始まりました。
萩平八幡山神社獅子舞保存会による、獅子の迫力ある演出や東秩父フラダンス（スイートハート）の優雅なダンス、比企広域消防音楽隊の華やかな演奏が披露されました。

また、滑川総合高等学校書道部による書道パフォーマンスが行われ、音楽に合わせながら、大きな筆を大きな和紙の上で滑らせ美しい字を書く姿はとても圧巻で、強靱な和紙の素晴らしさや魅力が伝わったことでしょう。

ふるさと響きまつりに出演した人は観客の心を魅了し、会場は大きな拍手に包まれました。

和紙の里文化フェスティバルのイベントはふるさと響きまつりだけではありません。体験教室や作品展も和紙の里内で両日開かれました。

和紙で作る紙飛行機やミニ版画、押し花体験教室などの実際に作成できる体験コーナーや創作美術展など見て楽しむブースも設けられ、多くの人にご参加いただきました。